

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ：<http://www.library.city.kawasaki.jp>

ご存知ですか？

郵送貸出サポートサービス

～ お体のご不自由な方に～

川崎市立図書館では、お体が不自由で図書館への来館が困難な方に対し、郵送で図書の貸出しをする「図書館資料貸出しサポートサービス」をおこなっています。

昨年度は、市立図書館全館で30名の方がこのサービスの利用登録をされ、273冊の本を郵送で貸出しいたしました。

利用できるのは、川崎市在住で、下記の条件に該当し、お体が不自由なために来館することが困難な方です。

ご利用になれる方

身体障害者手帳（1～3級）をお持ちの方
療育手帳をお持ちの方
介護保険制度で要介護・要支援の認定を受けた方
その他（来館が困難な方のご相談ください）

利用登録された方からは、電話やFAXで貸出を受付し、ご自宅までご希望の図書を郵送いたします。

図書をお送りする際の郵送料は図書館が負担し、お返しいただく際の郵送料は、ご利用になった方の負担となります。（ただし、身体障害者手帳1～2級の交付を受けている方については、費用の全額を図書館で負担いたします。）

今年度から、郵便局のご協力により、本の返送も便利になりました。返却の際は、郵便局に連絡すると、自宅まで集配にきてもらうこともできます。また、より多くの方にこのサービスを利用していただけるように、対象を要介護・要支援の認定を受けた方にまで広げました。

登録は各図書館で受け付けています。詳しくは、最寄りの図書館へお問い合わせください。



利用者の声

高津区在住の藤井さんにお聞きしました

ご利用になられたきっかけは？
病気で倒れて通うことになった病院のそばに、ちょうど高津図書館があったんです。

もともと趣味は読書というくらい本が好きだったので、杖をつきながら図書館にでかけてみました。そのとき窓口で、「こんなサービスもありますよ」とすすめられて、それでは、と。

よく利用なさっているのですか？

最近は注文した本を宅配で届けてくれるサービスもありますので、それで本を買ってしまうこともあります。それでも月に2回程度は利用していますね。

図書館で、新刊本もあまり待たずに借りられるようになるともっと便利なんですけどね……。



ご利用になってみて、いかがですか？

図書館まで行って、本棚を見てまわるのはとても大変なので、このサービスはありがたいですね。借りるのも返すのも、郵便局の方が玄関先まできてくれるので、とても便利です。

かわさきを「読書のまち」に!

読書のまち・かわさき ~ 読書で子どもたちに想像の翼を ~

読書は、子どもたちにとって、かけがえのない体験です。想像の翼をはばたかせ、心を磨く。そして、言葉を学び、生きる力を身につけていく大きな支えとなるからです。

川崎市では、子どもの読書の手助けになるようにと、平成12年9月に「読書のまち・かわさき事業推進委員会」を設置し、講演会、シンポジウム、そして読書のまち・かわさき通信を発行してきました。現在、さらにこの活動を推進するために、川崎市の子ども読書活動推進計画を策定中です。そして、川崎市独自の「かわさき読書の日」を制定する予定です。

かわさき読書のつどい

「かわさき読書の日」の制定に向け、高津市民館で「かわさき読書のつどい」を開催します。

読書体験の第一歩である、家庭での乳幼児への読み聞かせなどの読書活動にスポットをあて、講演やパネルディスカッションなどを行なう予定です。

開催日 平成15年11月2日(日)

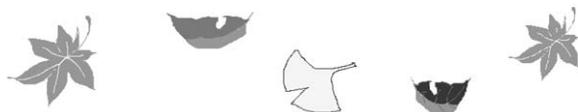
会場 高津市民館 大会議室

定員 先着200名 入場無料

主催 読書のまち・かわさき事業推進委員会

問合せ TEL 200-3243

くわしくは図書館の掲示やチラシなどでお知らせいたします。



児童図書企画展示

川崎市立図書館では、読書週間(10月27日~11月9日)の間、それぞれの図書館で児童図書のおすすめ本を展示して紹介いたします。赤ちゃんから中学生までの読み継がれてきた本を中心に展示し、おすすめ本のリストも配布の予定です。

ぜひこの機会に、懐かしい本や楽しい本にふれ、家族や友達と語りあってみませんか。

図書館フォーラム・かわさき 2003

第6回図書館を考える川崎市民・職員・教職員のつどい

テーマ「図書館を支えるボランティアの力」

- 図書館とボランティアのいい関係をつくるには -

私たちの生活や学校教育の中で、図書館をもっと役立てるためには、どうすればいいのか、何ができるのかを考える集いです。今年は、「ボランティア」をテーマに考え、話し合います。

内容 基調講演

「図書館とボランティア」

講師：小川俊彦氏

(NPO「図書館の学校」副理事長)

パネルディスカッション

「公共図書館におけるボランティア活動の可能性をひろげよう」

日時 2003年11月15日(土)

午後 1時~5時

場所 エポックなかはら 大会議室

参加費 1000円

主催 図書館フォーラムかわさき実行委員会

後援 川崎市教育委員会 他(予定)



昨年のフォーラムの様子から
パネルディスカッション

川崎市立図書館各館でチラシを配布しています。お申込み方法など、くわしくはチラシをご覧ください。

問合せ TEL 822-2413 板垣(高津図書館)
951-1305 吉井(麻生図書館)

クローズアップ

川崎には、いろいろな立場から、図書館活動、あるいは広く読書活動にたずさわり、大きな支えとなってくださっている方がたくさんいらっしゃいます。「クローズアップ」では、こういった方々の活動の様子を紹介していきます。

図書館を支える人々

稲田郷土史会のみなさんによる 「ふるさとなんでも相談」

登戸にある多摩図書館では、毎年夏休みになると、稲田郷土史会のみなさんによる、小中学生を対象にした「ふるさとなんでも相談 - 郷土史相談室 - 」がおこなわれます。郷土の歴史を知ってもらい、郷土への興味をもってもらおうと、昭和53年（1978）から開始して26回目を迎えたこの企画、今年は8月23・24日の2日間にわたって実施されました。

相談役の郷土史会のみなさんが、川崎の歴史や地理、史跡や文化財などの郷土に関する様々な質問を受け付け、郷土史会の活動で培われた豊富な知識で、疑問解決や調べ学習のお手伝いをしてくださいます。郷土についてくわしく知ることができるよい機会とあって、小中学生だけでなく、高校・大学生から社会人の方が相談にみえることもあります。以前には、相談内容として、自宅に眠っていた古文書が持ち込まれたこともあったそうです。

今年は、親子連れや友達同士など、13名の参加がありました。例年よく質問される「多摩川梨」をはじめ、「菅の六地蔵」、「戦争中の生活」、「五反田川」、「長者穴横穴古墳群」、「根岸古墳」、「川崎・菅の人口の推移」などについての相談がよせられました。これらの質問に対して、郷土史会の方は、いくつもの資料を使ってわかりやすく説明していただき、質問に来られた方も熱心に聞きながらメモをとっていました。

参加者の感想から

大変親切な説明と資料の提供をいただき、参考になりました。地域や郷土のことについての関心が深まりました。

本に載っていないことも聞くことができよかったです。来年もわからないことがあったら参加したいと思います。



今回のおもな提供資料としては、『新編武蔵風土記稿』、『江戸名所図絵』、『川崎歴史ガイド』、『多摩区OLD&TODAY』、『菅散歩』、『川崎物語集』、『稲田郷土史料集』、『あゆたか』、『川崎の町名』、『かわさき数字でみる半世紀』などがあります。

稲田郷土史会は、昭和42年（1967）に発足して以来、川崎北部の郷土研究の中心として活動し、その調査・研究の成果を機関紙『あゆたか』に発表しています。

『あゆたか』は、創刊以来、今年で第41号となります。昨年10月に発行された第40号に引き続き、向ヶ丘遊園を取り上げての特集号として発行される予定です。

『あゆたか』につきましては、川崎市立図書館で所蔵していますので、郷土の歴史を知る手がかりとして、是非ご活用ください。



機関紙『あゆたか』

かわさき歴史めぐり (1)

徳川氏の関東入国と川崎市域

法政大学名誉教授

村上 直

今年江戸開府より400年に当たります。開府の13年前の天正18年(1590)8月、徳川家康は小田原北条氏の滅亡後に関東へ入国し、江戸城を拠点とした関東領国経営を始めました。つまり、争乱に明け暮れた戦国時代と決別して、徳川の「平和」の時代に移っていくことになったのです。

家康や彼の重臣たちは、入国の直後から広大な関東平野を基盤とした徳川政権を樹立する構想を練っていたと思われます。関東において、小田原から江戸へ政治の中心が移るなかで、川崎市域は次第に変貌していったのです。江戸から多摩川を渡り約5里(20キロメートル)に位

置する市域(但し、麻生区付近は約9里)は、江戸城の城付地しろつけちとして、政治や財政上から重要視されていくことになりました。

やがて、地域の開発や江戸へ向う交通路の整備が急務となったとき、多摩川の分水による市域の稲毛・川崎二ヶ領用水と対岸の六郷用水(東京都世田谷区・大田区)の開削。江戸を起点として直線的に東海道の大磯宿に向う中原街道の設定が、重要な施策に取り上げられました。そして、この人工用水路わきあうかんと脇往還たちはなの接点となったのが、武蔵国橋樹郡小杉村(中原区)にあった代官小泉次大夫の陣屋と小杉御殿なのです。

今回から、川崎の歴史にふれるコラムを始めます。歴史の中で「川崎」というまちをとらえ、その魅力をひきだしていけたら、と考えています。

村上先生には、お忙しい中、このコラムの執筆を快諾していただきました。今後ともどうぞお楽しみに。

筆者紹介

村上 直(むらかみ ただし)

専門の日本近世史では『天領』、『近世神奈川の地域的展開』、『江戸幕府の代官群像』などたくさんの著書、編著があります。

川崎の歴史については『わが町の歴史 川崎』、『川崎市史』(編さん委員長)、『民間省要』の校訂といった著作ばかりでなく、各種講座の講師でもおなじみかと思えます。

平成5年度川崎市文化賞を受賞。文学博士。法政大学教授を経て現在に至る。中原区上小田中在住。



ご注意ください！ 上下本・シリーズ本の予約について



利用者用検索機やインターネットで予約した上下本やシリーズ本は、必ずしも(上巻から)順番には用意できません。

利用者用の端末やインターネットからは、借りる順番の指定はできません。

順番どおりに
借りるには？

続きものの本を予約された方は、カウンターで借りる順番の指定をお申し出ください。

職員の使う業務用のコンピュータでは、借りる順番が指定できるようになっています。

編集・発行 川崎市立中原図書館

〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417

044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橘分館(788-1531)

幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)

中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 管覧所(946-3271)